

平成29年度第2回社会教育委員会議会議録（HP掲載）

日 時 平成29年6月28日(水)

15:00～16:20

場 所 本庁舎9階第2委員会室

出席委員 山口議長、小林副議長、池永委員、大澤委員、榎本委員
奈良委員、藤島委員、渡辺委員（8名）

欠席委員 中川委員、辻委員（2名）

事務局 教育委員会教育部：瀬能部長、山口次長
生涯学習課：鍛冶課長、斉藤主査、千葉主査、杉本主査（担当）

1 開 会 （進行） 鍛冶課長

2 挨 拶

山口社会教育委員会議議長

瀬能部長

※新委員紹介 苫小牧工業高等専門学校 渡辺委員

3 議 事

(1) 第四次生涯学習推進基本計画の社会教育委員評価について
資料に基づき、事務局から説明

《質疑の主な内容》

議 長：議事1の説明、質問・ご意見ございますか。

委 員：“視点”というのは第四次計画の重点とか方向とかありますが、これが何処に反映されるのか、それともそうではなく、これまでと違った視点としてこれから反映されるのか、教えていただきたい。

事務局：今回、社会教育委員の皆様には評価をいただきましたが、その中から反省点や課題を出させていただきまして、今回強化すべき事業、強化すべき点として出させていただいています。まず、視点といたしましては、これから作成される新しい第五次計画に反映させていくべき項目としてご説明さ

せていただきました。

委員：特に重点とか方向性とかではなくて当てはまるところに対して、この文章（視点）に沿ったものを入れていくという考え方でしょうか。

事務局：社会教育委員の皆様の評価とアンケート調査、国・道の施策からの評価を新しい視点として、第五次計画に載せていこうと思っております。

委員：それでは、第五次計画のどこかのチャートに入るとのことですか。

事務局：ご意見につきましては、第五次計画への新しい視点として、項目という形で追加をさせていただくことにつなげたいということになります。

委員：1点いいですか。今の説明で追加をされるということでしたが、プラスアルファで一方的に増やしていただくだけのイメージですか。何か増やすためにはどこかを減らしたりと、数は第四次計画と同程度としますよ、とかそういう立場にはならないんですか。

事務局：今のところ、〇〇委員におかれましては前任者が評価をしていただきましたが、全部で60項目について評価をしていただきました。その中で、6項目が施策を強化する、残りの54項目は継続が必要との判断をいただいております。今回、この後別の資料でご説明いたしますが、それぞれからの視点について、第五次計画にもっていきたいと、その部分を新しい項目として追加をしていきたい、项目的には増える形になりますが、今後第五次計画を作成する際には、第四次計画の部分で少し項目ごとに統合できたらと整理はかけさせていただきたい、最終的に現在の60項目から、増えるか減るかはわかりませんが、その部分の整理と新たな視点を加えて、第五次計画にもっていきたいと考えております。

(2) 市民アンケート年代別集計表から導き出される視点について
資料に基づき、事務局から説明

《質疑の主な内容》

議長：議事2の説明、質問・ご意見ございますか。

《質疑なし》

(3) 国・道の考え方と苫小牧市第四次計画比較による新しい視点について
資料に基づき、事務局から説明

《質疑の主な内容》

- 議 長：議事3の説明、質問・ご意見ございますか。
非常に良く出来ているチャートだと思います。
- 委 員：これだけの資料ですので見てすぐに解らないですけど、要するに苫小牧の特徴がどのようなものがあるんですか。資料の説明で、国も道も似たようなところが多いということでしたけど、大きくは違わないと思いますよ。苫小牧市として第四次計画のところで、国や道とこういうところに違いがあるよ、というところがあれば教えていただきたい。なければならないでいいんですけど。
- 議 長：教育行政は枠が決められるというかだいたい同じ考えになるんですよ。教育長がおっしゃっているのは5つの柱、1つは一人ひとりにニーズに応じた確かな学力を育む教育活動の充実、2つ目は豊かな人間性と健康な身体の育成、3つ目は学校・家庭・地域社会と連携から信頼される学校づくりの推進、4つ目は家庭教育の問題で家庭地域で子供を育てる環境づくりの推進、5つ目は郷土の良さを活かした実りある生涯学習の推進と5本の柱をおっしゃっているようですが、その辺りが苫小牧の特徴とされますけど、事務局いかがですか。
- 委 員：ただ、このままの文言で五次計画に書かれると、終わったときに結果的に第四次も第五次も同じじゃなかったかという感じがする。だから、第四次のときに重点項目と書いてありますが、重点項目は確かに重点なんですけど、最初の見出しみたいなものですよね。本当の重点、苫小牧市のこういうところが足りないんだよとか、他の町では足りているけれども、苫小牧市では少し足りないよというところを逆に重点項目に置くような記載がいいのではと思いますが。そういうのは沢山あると思うんですよ。
- 議 長：その辺は議題4で出てくると思います。
- 委 員：ここで新しい視点ということが出てきてますが、新しいとはこのところが苫小牧市はないですよ、欠けていますよと認識すればいいですか。
- 事務局：そのような認識で、その辺の視点が現在の第四次計画に欠けている感じで、次の第五次計画にはその点を国なり道なりの動きと連動した形で、アンケ

ート調査からもこのような結果も出ていますのでそういう点を反映して第五次計画への新しい視点として出したいということです。次の資料4（議題4）で説明をしようと用意していましたが。

（4）苫小牧市第五次生涯学習推進計画の方向性（案）について
資料に基づき、事務局から説明

《質疑の主な内容》

議 長：議事4の説明、質問・ご意見ございますか。この重要な視点として、5つの柱が立ちましたけど、さらに苫小牧市がこういう重点としてやったほうがいいのというものがあればご意見をいただきたい。

委 員：重要な視点はそのとおりだと思うんですが、これ新たに組み込む項目と書いてありますが、一番最初の、「すべての世代が生き生きと活躍していく学びの環境整備と充実」ですが、これ第四次計画でも当然やっていることですよね、これを取り立てて新しい視点として、重要な視点であることは判りますが、項目として挙げるんですかね。これ前だって、いつでもどこでも市民一人一人がいつでも学習できると散々言ってきているんですよ、これは重要な視点であることは間違いないですけど新たにとは妥当なのかどうか、ちょっと解らないですね。もう少しポイントを絞ったほうがいいんじゃないですかね。そういう気がしますが、別に入れていただくのは結構ですけど。重要であることは間違いないですけど。議長どうですか。

議 長：そうですけど、基本的な部分ですし、再確認としてはいいと思うんですが、新たにとは今までやってなかったことであれば、と引っかかっているようですが。皆さんどうですか。まあ、やっていることを記載したと思うんですけど。

委 員：特に第五次で強調したい点としては、あえて挙げればどの当たりにあるんですかね。だいたい、子供・高齢者・地域・ボランティアなどその当りはもうこれから強化するのは解っているんですけど、その辺りなんですかね、下のほう「社会のニーズにあった講座の充実と社会人の学びの継続・学びなおしの推進」ですけど、これも今までやっているような。

議 長：苫小牧市としてシンボリックなもの、何かポイントがないのかと、ということじゃないかと思うんですが。苫小牧市としてこういう方向性でやってみ

たらいかがというご意見があればどうですか。

委員：社会教育委員評価をした際に、60項目評価したんですが、大変難しかったです。A（継続）、B（強化）と、Cは付けなかったと思いますが、何を基準にしてAにしたらいいか、Bにしたらいいか、どのような意見を加えているのか、非常に迷いながらしかも短時間でやってしまった。何か、はっきり、すっきりしないところがあるんですけど、重要な視点の中で特に国も・道も言っているが、地域と学校の連絡とか、地域の活性化とかあるんですけど、苫小牧は地域がたくさんあり、町内会とかどのような活動をみても町内会そのものに参加しない世帯がたくさんあったり、子供も少なくなったり、それからお年寄りの世帯ばかりだったり、色々あるので当然重要な視点として加えられているのは当然なのかなと思うんですけど、いままでもこれはずっと取り組まれていたことで、どのような強化をしていくのかこれからの課題ではないかと思ったりしている。

議長：学校によっては東中学校あたりですと部外の講師を呼んで講義をしている場合があるんです。それは正に地域でそういう方を呼んで学生に教えたりしている。そういう教育をやっている。苫小牧では、小学校や中学校それぞれのエリアで、校長先生が（地域の指導員）確保しているのではないかなという気はしているんです。ただ、委員の方に入ってきているかは分かりませんが。教育行政にはいっていると思っっているんですけど。事務局どうですか。

事務局：国の方では第2の人生というところを次期計画で、人生100年社会という形で言ってますが、現在少子高齢化で高齢化社会となってきましたが、高齢者の第2の人生の生きがいと学び直し、上の世代の活躍の場を国は強調していますし、道は地域という言葉が大切に使われており、苫小牧で地域となると町内会という単位もございまして、生涯学習の活動拠点となりますと地域のコミセンとか教育施設、図書館などがございまして、町内会活動はあまり関わらない方もいますので、やはりその拠点である施設に来てもらうか考えるのが、この第五次計画の、国も道も含めまして大事ではないかと考えております。

委員：地域という言葉に反応してしまいますけど、こだわりがあるもので、あるときは地域とは広範囲に見られるときもあり、あるときは狭い範囲でテリトリーと見られることもあることで、第四次計画のときも地域という言葉がいたるところに出てきている。道の地域とは何処を指しているのか、よく読みきらないと解らないところがあって、もう一つ気を付けなければならぬところがあって、その読む人によって、地域を狭くすることはマイ

ナスになるのではないか、地域の人材を活かしてと記載してしまうと、地域だけの人材との捉え方になってしまうので、そうではなく広い意味で“市民”という言葉が出てこないの、そういう言葉も適材適所に使ってみた方がいいのかなと思います。この一番最後の文章からだところまで読めないかもしれませんが、これからブレイクダウンしていく間にそういうことも考えていったほうがいいのではないかと思います。

委員：この重要な視点は、第四次計画の推進の重点に相当するところなのか、推進の方向性に相当するところなのか。

事務局：方向性になるかと思えます。重点項目はまた別の設定になるかと思えます。こういう方向性でやっていきたいとの方向性で考えております。

委員：重要な視点として5つ上がっているんですが、類似しているところが多々あるようなんですが、例えば、1項目目と3項目目は、全ての世代と第二の人生であれば、全ての世代に入ってくるのではないかとか思ってしまうんですけど、そういうところとかももう少し整理したほうがいいのではないかと気がします。

議長：1項目と3項目目ですか。

委員：そうです、何かオーバーラップしているところがあって、基本的には同じというか、全ての世代が生き生きというところの小項目として、第二の人生にも力を入れますということなら解るんですが、それを並列で置いているものなのかどうなのか。全ての世代の中には第二の人生も入ってきますよね、それとかあと下の2つは地域の活性化と地域と学校って色々とペアリングがあるかも知れませんが、最終的には地域の活性化の方向になっていくのかなと、色々と読み取れてしまうのももう少しまとめてもいいのかなという気がするんですが。

事務局：今回の方向性として重要な視点というところを出している意味合いは、○委員もおっしゃっていましたが、これまでも取り組んできた部分でありまして、国の計画だとか市民アンケートだとか、国・道と比較しまして、特化したある程度力を入れた形で新しい計画をつくって取り組みたいという意図を出しているものです。ここに出ている重要な視点をですね、そのまま具体的な施策として出すかという、そうではないです。今回ここを出したのは、重要な視点としてこういう方向性で次の骨子を作るにあたり取り組みを進めてもよろしいですかということで、社会教育委員の皆様にご承認いただいて、この重要な視点の中で、苫小牧市としての独自の取

り組みとして不足するものがあつたら是非、社会教育委員の皆様方にご意見をいただきたいということで案としてつくったものです。そのまま条文というか具体的な施策として出るわけではなく、これから先にこれを出す際に第四次計画の継続項目と合体させていくのか、それとも新たな視点として別だてしてつくるのかは、これから先の議論であり、この第2回の会議の場におきましては、この取組項目で進めてもよろしいですか、という承認をいただきたいという意図で今回の会議にかけたということになります。

議 長：事務局より趣旨の説明がありました。

委 員：いいですか、これは新たに取り組むという項目ではないんですよね。〇〇委員がおっしゃるように。新たな第五次の計画の中で落とせない視点なんですよ。アンケートや社会教育委員の評価、国や道との施策からリンクする部分として、第五次計画では落とせないところですよ、と押さえであって、新たに取り組む視点ではないですよ。そこの表現が少し誤解を招くかなと。

委 員：いいですか、今の話を聞いて納得が이었습니다。もしかするとこのままこれが次期計画に載るのかなと。そうであれば一体私は一市民としてどこに属するのだろうかと全然解らなかつたので、これがぱっと公報に載って、自分が何処に属するのか解る文章であればいいなと思いました。それで、アンケート調査からの私の考えですが、全国的でないかも知れないし、母親目線で言っているかもしれませんが、平均年令を下げるが必要だと思っています。アンケートでも圧倒的に年配、高齢者の方ばかりの声であり、生涯学習に関わる方たちの平均年令を下げるのが課題だと思っています。そのために子育て中の母親とか子育て中の大人が、子供に接するときはどうするか、0歳のときから学ぶのは当たり前、という環境をつくって行きたいと思っています。そういう項目が入ったら嬉しいなと、そういう考えを持っております。よろしくお願いします。

議 長：非常にいいことではないですか。アンケート対象の年令を下げてご意見を聴くということも大事ですよと提言されていると思います。

委 員：この視点だけども、4項目より5項目の方が座りがいいんだけど、1つ目の「すべての世代が生き生きと活躍していく学びの環境整備と充実」は生涯学習推進の世代は全ての世代なんですよ。まあ、市民と言ってもいいですけど。これの細分として、第2項目から第5項目まであるんでないかなと思うんですよ。最初の項目で、全ての世代、市民が学ぶ活躍するの

は正に生涯学習部の仕事そのものだよね。やはり1項目目を看板として出して、その下に社会のニーズや第二の人生、地域・学校がくるんであって、これを並列させてしまうのは少し違うのではないですかね。1項目は重要な視点というよりも生涯学習そのものを言っているような印象を受けます。

議 長：この5項目については、基本的なことで今までも実施されていることの再確認だと思います。それは教育行政の基本だと思います。さらにもう一歩前へ進んで何かあるかという委員のご意見を伺いたいと事務局は思っているんです。

委 員：私も1つ加えて欲しい観点としてもって欲しいのが、若い世帯がないという委員のお話もありましたが、私も共働き世帯ですから先ず地域のコミュニティ活動とかに協力することが難しい状況です。平日働いていて折角週末子供と遊べるときに家族を大事にするのか、教育という観点を持ってそういうところに行くのか、やはり限界があると思うんです。あとどうしても共働き世帯であれば小学校が終わった放課後の教育を何処に任すのか、塾に任すのか学童保育に任すのか、そういうところが色々あるので苦小牧は共働きの家庭は多いと思いますので、そういうところも少し考慮に入れていただければなと感じております

議 長：私からお話させていただいてよろしいですか。私は苦小牧のシニア世代の参加、これまで一生懸命働いてきた方が退職されて地域に住まわれます。住まわれた方の色々な技術的なもの知識的なものを行政が吸い上げてパイプにしていく方法はないのかと常々思っているところです。卒業して帰ってくる、それまで地方で仕事をして色々なことを学んで人生を学んできている。その知識が苦小牧に活かされていない気がして勿体ないと思っている。用はシニア世代の社会参加、あらゆる技術を持っている人を出前講座や人材バンクみたいなものを作って、その方々を吸い上げることによってその方々も生きがいを感じるだろうし、非常にいいような現象が起きるんじゃないかなと思うんです。それともう一点、高齢者と保育園、青葉町でやろうとしておりますが、高齢者と保育園児、保育園の施設を作ったけども少子化で幼児が少なくなった。であれば、高齢者がデイサービスなどに行ったときにそこに保育園児も一緒に生活できる空間や時間をつくってはどうかという考えを持っているんですけど、私の意見として。参考にさせていただければ結構です。

委 員：細かいことになるかもしれませんが、私は平均年令を下げることに拘っていて、苦小牧市民がどういう姿であればそれが達成されているというのを

出してもらえれば嬉しいなと思うんですが、少し難しいんですが、0歳から3歳はこんな姿、小学生はこんな姿、10代においては、20代においてはこんな姿、60代においてはこんな姿と、生涯学習がずっとつながっていく様子、イメージを出してもらえれば市民としては、今私はこの年齢だからこんなふうであれば生涯学習をやっているんでじゃないですけど、自分のことのように置き換えることが出来るのかなと思います。ぱっとみて、距離が遠くなる、自分が何歳だから当てはめるこういう姿でありたいなと分かりやすくなればいいなと思いますのでよろしくお願いします。

議 長：たしかに生涯学習というのは幅が広くて、社会教育というエリアは広いと思います。だから、どれをやって欲しい、これをやって欲しいという具体的な小さな柱を立ててもしょうがない問題で、どうしても抽象的になるんだろうと思います。こういう理念でいきたいんですということにしかならないんだと思うんです。

委 員：実際に行事だとか講座をやっていて、効果、評価ではなく効果を検証すべきものと、そこまでやらなくてもいいというものもあると思うんですが、それに対して、例えば先生になる方がどういう方か私は経験がありませんけど、こういう授業を受けて自分の身に入ったんだとなれば自分の効果になる、自分なりにですけどその先生が言ったことが本当に効果があるのかどうか、色々な人が評価をしないと判らないかもしれない、このようなことを言って申し訳ないですが、教える側の質、大学などでは生徒からの評価があると思うんですが、あまりやると先生になる方がいなくなってしまおうと思うんですけど、でも何らかの技術の一つだと思うんですけど、質の保障というものをしてあげて、例えば今日パッチワークに来ましたよとこの方はこういう受講証をもっていますとか、そのような物があれば、学ぶ方も信頼性がある人だし、あちこちで活躍している人だなと分かれば来ると思うんです。それに対して、自分はこういうことを学びたいから来るとんだということがあるんですけど、そういうのがあちこち広がってしまったけども文字だけ見ても内容が解らないものがあるので、その辺のところのやり方と仕組みづくりをやれば効果が出てくると思うんです。その仕組みづくりをつくってもらうか、極端な話しですけど、他市でも行なっている生涯学習コーディネーターを地域に派遣するとか、そこで色々話合っって仕組みづくりをしていく、その施設にあった仕組みづくりをしていく、そのようなことをしていけば、今までまわっていないところが、きちんとまわっていくことが出来るのかなと、少し細かい話になりましたが。

委 員：場所の話ですけど、各町内会でサロンとかやってるんですけど、と言いますのは、高齢者が出て行くのは大変で町内会館とかでやってもらえると参

加が増えるのではと思います。

議長：それは具体的は方策としてですね。

委員：講師は土日は駄目とか過去にあったんで、そういうのもどんどん後継者講師が増えれば、土日でもサロンに来てもらって、講演とかしてもらえれば凄く町内、地域としては助かるなという部分があります。そういうところも考慮に入れていただければなと思います。

議長：その辺は広報だとか市のホームページを見てもらって参加する機会を提供して、まずは広報しなければ、行きたい人が何があるのか分からない。

委員：遠いといけないのでね。

委員：次回の社会教育委員会議ではどの辺りまでもっていくんですか、案としてそれによって、この場で言う意見が違ってくる。この場でいいのか、次の場なのか、分からないので、次は第五次の骨子の検討ですよね。その検討の題材が出てきますよね。骨子とはどのようなものなのか。

事務局：今回は、推進計画の基本計画 構造図の表の形で、今回いただいた項目と方向性、事業をどうするのかという事業内容までは、出したい、お示ししたいと考えております。

委員：その場でこういうものを追加してくださいと、遅くはないんですね。入れられると考えてよろしいですね。

事務局：当然案としてお示しするものですから、変更は可能と思いますが、今の時点で入れていただきたいというものがあれば早めに言っていただければ。

議長：とりあえず案と言うことで変更は可能ということです。

4 その他について

①事務局より、第59回全国社会教育研究大会北海道大会に関わる社会教育委員の参加依頼について説明。

②次回開催予定説明